

研修会を開催

「中小企業の連携によるものづくり」について



大阪府中小企業組合士協会では、さる平成25年3月6日(水)、ホテル京阪天満橋 2階 梅の間にて研修会を実施しました。第1部では講師による講演会、第2部では協会会員による発表会を行いました。第1部では、講師に組合経営研究所 所長 中小企業診断士 西脇 和信氏を招いて「中小企業の連携によるものづくり～成功・失敗事例と企業経営への提言」についてご講演いただきました。

同氏は長年、大阪府中央会に在籍し、指導に係った融合化組合への補助事業を活用した製品開発の成功事例について説明されました。

発表事例の大阪デザインカーペット製造機開発協同組合は、株式会社ニッシン(カーペットメーカー)他4社が集まり、当時の融合化法(時限立法)に基づき設立した組合で、融合化開発促進事業を活用してデジタルデザインカーペットの製造機を開発しました。



講師の西脇氏

当時、当該事業では途中で頓挫した事例が多い中で、数少ない成功事例で、開発初期の段階でうまく融合化事業を活用できたこと、開発の段階から販路を想定していたこと、開発後も市場のニーズに対応して技術改善を怠らなかったことが成功した要因と考えられるとのことでした。



発表する安田氏

最後に中小企業について思うこととして、この事例の会社は、プラザ合意による円高、バブル崩壊後の不況、阪神淡路大震災による停滞、等々失われた20年といわれる日本がもっとも苦しんできた時期に、廃れることなく生き残り続けてきた。一時期の開発に終わらず、常に時代のニーズに合わせて改善を続けてきたからであり、今こそあきらめない経営が必要だと思ふとのことでした。

第2部では、会員発表会を行い、協会会員で副会長の関西POF協会安田氏に「所属団体の運営について～組合士としての所見」をテーマに発表されました。発表者の安田氏は若い頃から関西POF協会の前身組織である関西ポリオレフィン協同組合の事務局を担当し、今は協同組合の運営の経験を生かして、協会の常務理事を務めておられます。

協同組合では、多くの事業活動を手がけられ、中でも知的財産管理事業は成功した事業で、この事業は組合がポリオレフィンに関する特許権を取得し、その使用权を組合員に貸与する事業で、これによりポリオレフィン材が広く流通し、紙のサミットバックを市場から駆逐、その普及に貢献することができたとのことでした。